

平成20年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成20年11月27日(木)  
午後3時30分～午後4時55分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 14B会議室
- 3 出席委員 13名  
廣瀬委員長, 工藤副委員長, 江面委員, 大野委員, 櫛淵委員  
山野井委員, 塚田委員, 若度委員, 郷間委員, 贅田委員,  
松江委員, 石原委員, 中島委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
  - (1) 報告事項
    - ①第50回全国社会教育研究大会(第39回関東甲信越静社会教育研究大会併催長野大会)について
    - ②うつのみや地域教育メッセの結果について
    - ③平成20年度宇都宮市地域教育活動支援補助金の交付状況について
  - (2) 協議事項
    - ①第2次宇都宮市子ども読書活動推進計画の素案について
- 7 その他
- 8 閉会
- 9 発言の要旨

廣瀬委員長	それでは、会議次第に基づき、本日の議事を進めてまいります。 まず、報告事項①の「第50回全国社会教育研究大会(第39回関東甲信越静社会教育研究大会併催 長野大会)について」ですが、先日、工藤副委員長、私、事務局の3人で長野市に行かせていただきました。 始めに、工藤副委員長からご報告いただきたいと思います。
工藤副委員長	それでは「第50回全国社会教育研究大会」につきまして、報告をさせていただきます。 大会スローガンは、「過去・現在・未来をつなぎ、『智』『情』『意』が響

きあう活力ある地域づくりを目指して」であり、研究主題は、「住民の社会貢献活動及び地域再生と社会教育の役割」でございます。

会場は、全体会が長野県県民文化会館で、分科会が、長野県県民文化会館、長野市若里市民文化ホール、長野県社会福祉総合センターの3会場で開催されております。3つの会場は長野駅の東側で、それぞれ徒歩でいける距離にございました。

長野市は、人口約38万人。約1,400年余りの歴史をもつ国宝・善光寺を中心に栄えてきた都市であります。1998年の第18回長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催されてから各種コンベンションの受け入れ体制が充実しております。

長野駅の東側は区画整理が始まったばかりで、市街地がまだ形成されておりましたが、県民文化会館、県立図書館などの公共施設が造られておりました。

善光寺から長野駅までの中心市街地は、シャッターが閉まったままの店がまったく無く、善光寺を中心にまちが形成されているのが良く分かりました。

この全国大会は、昭和34年度から開催されておまして、今回で50回目でございます。主催者の発表では、約1,300名の参加者があったとのことございました。

主な日程は、初日にアトラクション、開会行事、基調報告、コーラス、記念講演でした。

それでは、初日の社団法人 全国社会教育委員連合 会長の大橋謙策氏の基調報告について報告します。

「社会教育法が昭和24年に制定されてから60年目になる今年、一部が改正されたが、世界平和、民主国家、文化国家の建設には住民の学習は不可欠であり、安心して暮らせる地域づくりにも住民の学習は不可欠である、とうたった戦後の社会教育の出発の理念は普遍でなければならない。しかもそれは、住民参加による社会教育行政が推進されてこそ可能である。社会教育委員は、その社会教育活動の要であることを自覚しなければならない。第50回の記念すべき本大会で、戦後社会教育の理念を長野県の実践からおおいに学ぼう。」と言うものであり、大会初日に、私たち社会教育委員に喝を入れる内容でございました。

次に、記念講演について報告いたします。

講師は、地球物理学者であり、地元、佐久市出身でアラスカ大学名誉教授の赤祖父俊一氏。オーロラ及び地球電磁気学の世界的権威であり、アラスカに渡ってから今年で50年とのことでした。

講演内容は、演題の、「オーロラに魅せられて」のとおり、映像を使ってオーロラや氷河、地球的な規模の数々のデータを紹介するものでありました。昨今の二酸化炭素による地球温暖化説を赤祖父氏は否定し、氷河期の循環期説を展開されておまして、地球温暖化については楽観視していた

のが印象に残りました。ものごとの全体像を理解する必要性、発想の転換といった次元で参考になるものでした。

次に、大会3日目のシンポジウムについて簡単に触れたいと思います。テーマは研究主題と同じ「住民の社会貢献活動及び地域再生と社会教育の役割」でございます。

平成18年度の富山大会、19年度の香川大会の研究主題を受けて、さらに一步踏み込んで、新しい公共の姿を模索するものでございました。

次に、私が参加させていただいた第6分科会、「地域文化の継承と創造」について簡単に報告させていただきます。

長野市松代町「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」、北海道倶知安町、高知県室戸市吉良川町よりそれぞれ話題提供がございました。

特に、松代町は、昭和41に長野市と合併してから、地域と役所との距離が遠くなり、地域の声がなかなか反映されないということで、活性化のため住民が立ち上がりました。真田十万石などの歴史的な素材を生かし、まちづくりを行っています。昨年、宇都宮市も2町と合併いたしました。合併直後の本市の取り組みの参考になるものと強く感じました。分科会のまとめで、よそ者、変わり者、若者が中心になって動いていかないと伝統文化をつくっていけないのではないかというお話がありました。

私の個人的な感想ですが、伝統文化とは信州の辛味そばのように生きた形のままで、連綿と生かされ、地域で大事に継承していくべきものであると思いました。以上、全国大会の報告とさせていただきます。研修に行かせていただき誠にありがとうございました。

廣瀬委員長

ありがとうございました。次に、私が参加しました特別分科会「信州教育の歩みと展望」について報告します。

長野県は教育にお金をかけているところで、信濃教育会という民間の団体がございます。信濃教育会は、学校の教員の研修を行っているのですが、同時に生涯学習も併せてやっているという報告を受けてまいりました。

ご存知の通り、長野県は公民館が日本で一番多いところです。約1,800館の公民館があり、そこで高齢者の健康教育やまちづくりが行われていて老人医療費が日本で一番安い所です。地域での教育活動を盛んにしていかなないと、社会発展は見込めないということが長野の教育ではっきり分かります。ですから、本市で作成いたしました「うつのみや地域教育プラン」は、非常に妥当性のあるプログラムであると思いつつながら研修に参加してまいりました。

来年は全国大会が熊本県、関東甲信越静大会が埼玉県でございます。

来年は他の委員の方には是非、見聞を広めてきていただき、社会教育委員として貴重なご提案をしていただきたいと思いますと思っております。

何か、この件についてご質問はございませんか。なければ次に、報告事項の②「うつのみや地域教育メッセの結果について」に移ります。事務局

から説明をお願いします。

事務局

【事務局説明】

廣瀬委員長

地域教育メッセに500人の方がいらっしゃいました。私は、もう少し、小学校の発表もほしかったと思いました。にぎやかで、うつのみやまちづくりメッセのような感じの作りになっていました。

500人も集まって、37団体の参加があつて非常にいい事業だったと思います。来年は、より充実させていただきたいと思います。

参加された方に、感想を伺いたいと思います。松江委員いかがですか。

松江委員

私どもの団体でブースを出させていただきましたが、ほんとにいろいろな団体があるのだなという新鮮な驚きがありました。不勉強で、私もまだまだ団体間の横のつながりが抜けていたと感じました。私どもも宣伝できましたし、他の団体からも色々な情報を得て勉強になりました。ありがとうございました。

江面委員

私も、人間力向上フォーラムの前に各団体、一通り回らせていただきました。色々な団体があると感じたことと、学校教育にご助言、あるいは援助していただけるのではないだろうか、こんな風に感じました。

大野委員

西原小学校のパネル展示がありまして、まだできたばかりの「おやじの会」だったのですが、他の団体の活動の様子を見ることができて大変参考になりました。

廣瀬委員長

できたばかりの団体の出展は、期待が持てます。他にご覧になっている方、せっかくですから発言を、お願いします。

櫛淵委員

少し、展示パネルの高さが低かったような感じがいたしました。皆さんに展示物を下まで見て頂くためには、パネルが低かったと思います。

山野井委員

資料の課題にあるとおりですが、周知が遅れたことと、PRがもっとあるとよかったという感じは受けました。ですから、知らない人がたくさんいたのではないかと思います。展示場所も、ひとつの課題なのではないかと感じました。

廣瀬委員長

そうですね。いろいろな意味で急いで作ったメッセであったと思います。会場等の改善点も出てくるのではないかとと思うのですが、ぜひ来年度に向けて充実させていただければと思います。

それでは、報告事項の③「平成20年度宇都宮市地域教育活動支援補助

金の交付状況について」を事務局から説明をお願いします。

事務局

【事務局説明】

廣瀬委員長

この事業にかかわっている委員の方いらっしゃいましたら、ご発言いただきたいと思います。

櫛渕委員

宮の原小学校サマーキャンプですが、二日目に流しそうめんをやっております。その時に竹の準備とか竹を割ったりする作業は、地域の人々がお手伝いしております。竹を割るには特殊なナタが必要です。それと、三脚を用意して流す準備も私たち地域でやっております。お椀を作ったり、箸を作ったりするのは子どもたちが自分でやっております。

山野井委員

我々、陽光地区ですが、子ども会の小学生135人が参加しておりますが、子ども会の加入の問題がございます。こういう形式でやるのは、段々と子ども会に入る子どもを増やす目的もあります。あとひとつは、私どもではできるだけ中学生や高校生に参加してもらおうと、彼らを何とか惹きつけようと努めております。陽光地区では、地域の体育祭にも中学生や高校生にできるだけ参加してもらって、幼・小・中・高・一般と地域ぐるみで物事を考えてもらっております。資料の感想にあるとおり、とても大変です。でも、年中行事としてほぼ位置付けされてきたなという感じはいたします。

廣瀬委員長

今、ご指摘があったように、中学生が実は非常に注目されております。陽東中学校では母校の小学校を支援しようという動きがあって、そういう中学生が小学生を手伝うという広がりがございます。

塚田委員

中学生、高校生の参加が望めれば大変いいことだと思います。子ども会のほうも地域で温度差があります。だいたい入っている地区もありますが、最近では抜けられている地区もありますので、こういうことで子ども会活動をアピールできればいいと思います。

若度委員

これは非常にいい事業であると思います。我々も、育成会等でリーダー訓練や外に出る事業はありますが、地域を含めて保護者が参加する機会が少ないので、身近なところで実施することができて、参加者が望めるのが良いと思います。

山野井委員

中学生は、最初は正直なところやる気がなさそうな態度で参加しています。ある意味では、大人のほうから見ると「あの連中はとんでもない」という見方をする方もいらっしゃいます。でも、彼らは上手に頼めば、結構

やってくれます。最初は困ったなというところではありますが、気長に眺めていると、段々と中学生や高校生が増えてまいりました。

松江委員

実は、陽南地区でも実施しました。ただ、今年度は、補助金申請をしませんでした。夜はULCの方をお願いしてキャンプファイヤー等で盛り上げていただきましたが、ULCを見てあこがれてリーダーとして活躍したいと思う子どもがいて、やがてはULCの会員になるケースがあります。先輩の姿を見られるというのはいいことだと思います。

事務局

資料の峰地区の高校生の4名というのもULCのお子さんです。それから資料の今泉地域コミセンの活動内容にありますKYTトレーニングというの、子ども会による指導者育成研修の修了者が、子どもたちに対して、こういったところが危険なのかみんなで考えようと講座をやっていたものです。

廣瀬委員長

わからない人がいると思いますので、ULCについて少し説明してもらえますか。

塚田委員

ULCとは、宇都宮リーダースクラブのことで、市内に在住している高校生、または市内の高校に通っている高校生で組織しております。一時は現役だけで50名くらいいた時期がありましたが、段々減りまして、現在は現役の高校生は十数名です。以前はOB・OG会という別組織だったOB・OGが、今はULCと一緒に活動していて、併せて40数名在籍しています。新しく入会してくるリーダースクラブのメンバーは、だいたい小学生のときにリーダースクラブに指導してもらったか、一緒に活動したということで、その時、自分も高校生になったら入りたいと思い、入ってくる人がほとんどです。

廣瀬委員長

わかりました。ありがとうございました。中・高生は、小学生がいて、自分が初めて大人であると実感できる事例があるのではないのでしょうか。

贄田委員

先ほどのULCのリーダースクラブの子がうちの地域にもいるのですけれど、祭りのときはその子が中心になって子どもたちの活動を盛り上げてくれています。すごくいい勉強をしていると思います。

廣瀬委員長

そうすると、地域の教育力と言ったときに、大人だけではなくて、中・高生も何か地域の教育力になるような力を持っているのかもしれないね。他に何か質問ございませんか。

大野委員

宿泊とは直接関係ないかもしれませんが、西原地区にも西原YCCとい

うグループがございます。中学生と高校生によるボランティアのグループです。たとえば敬老会ではすすんでその子どもたちが仕切ってやっております。学校の校庭で夏まつりであるとか、どんど焼きであるとかそういう行事がある場合、必ず西原ＹＣＣが来てボランティア活動をしています。年度末には西原ＹＣＣの方が小学校にやってきて、子どもたちに自分たちはこういう活動をしていると紹介をいたします。そして、新しく小学生が入会していきます。

廣瀬委員長

そのお話は有名なので、私はよく聞いていました。まちづくりのもうひとつの担い手なのかもしれませんね。この件について他にご意見、感想等お持ちの方いませんか。それでは次の、協議事項に入りたいと思います。協議事項の①「第２次宇都宮市子ども読書活動推進計画の素案について」を、事務局から説明をお願いします。

事務局

【事務局説明】

廣瀬委員長

第１次の推進計画が一定の成果を収めました。第２次計画について、皆さんからご意見やご感想を何点かお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

石原委員

子どもたちが今、たくさんの機械音に囲まれている中で、人の声で、身近な声で、読み聞かせの機会を得ることはとても貴重なことだと思います。また、小・中学生も自分で読むという機会、じっくりと考えるという機会はとても大切です。その環境づくりにこれだけの企画なさっていることは大変素晴らしいと思いながら、お送りいただいた資料を読ませていただきました。

乳幼児期からのかかわりについて、宮っこふれあいブックを１歳６ヵ月健診で配布していらっしゃるということですが、もう少し前からでもいいのではないかという印象を受けました。言葉を話す前でも子どもはたくさん聞く中で、言葉を蓄えている時期です。たとえば０歳代後半とかそういった時期からの読み聞かせは、子どもにとって豊かな心を醸成する意味で効果的と思っております。

それから、学校図書館と市の図書館の連携が課題として上げてありますが、乳幼児期も対象としているのであれば、たとえば幼稚園、保育園でもいま蔵書を増やして園で貸し出しをしているところが増えていきますから、そういったところにも市図書館のご支援があれば、さらに充実していくのではないのかという印象を受けました。以上でございます。

郷間委員

私どもの平石地区ですが、地区市民センターに保健師さんがおまして３歳児等の定期健診がありますが、その都度、「はぐはぐ」というボランテ

ィア団体が何人かで読み聞かせをしております。午前中、地区市民センターで聞いた話ですが、どうも地区市民センターに置いてある本の貸出しは、大人が多く子どもが少ないとのこと。子どもに貸出すにはどういう本をそろえておけばよいか、地域として考えてみたいと思います。

中島委員

私には幼・小の子どもがおりますが、読書に関しては、親がどこかに連れて行くというよりも、子どもに何かをしてあげているという、子育ての一環としての親子のふれあいという意味で、非常にいいことだと思っています。この読書活動推進計画そのものに関しても、非常にいい計画であると感心しております。

図書館との連携の話が出ましたが、どこにでも、それぞれの世代が読める本がその場所にあるという、本に囲まれている生活は非常にすばらしいと思います。学校、市民センター、市役所そのものなど、何か本が置いてある環境はすばらしいと思います。

それから、読み聞かせの仕方によっては話の中身が分かったり、分からなかったり、テクニックも非常に大きいと思いますので、ボランティアさんが技術的に句読点、アクセント、間の取り方などレベルアップのための学ぶ機会があると良いと思います。

事務局

いろいろなご意見をいただきありがとうございます。先ほど集団検診の中で、宮っこふれあいブックは1歳6ヵ月より前でもいいのではないかというお話がありました。宇都宮市では4ヶ月・8ヶ月の検診は個別検診となっており、1歳6ヵ月が最初の集団検診なっていることから、その機会を活用し読み聞かせをしながら配布しております。乳幼児につきましては子育てサロン、各市民センターの活動等のいろいろな場所、機会を捉えて対応しております。今後も、乳幼児に対し、読み聞かせの機会が提供できますよう考えてまいります。

また、学校図書館と市の図書館の連携を、保育園、幼稚園にまで広げられないかということですが、今後の課題として検討してまいります。

読み聞かせのテクニックにつきましては、図書館の方で読み聞かせボランティアの育成、研修を実施しており、より充実させてまいります。

山野井委員

感想になりますが、「宮っ子ステーション」などでも読書についてはプログラムに入っておりませんし、「魅力ある学校づくり地域協議会」でも話題にはほとんどなりません。今までのいろいろな地域と学校との連携の機会においても、読書について話題になることがなかったような気がいたしますので、積極的に取り上げていく必要があると感じました。

もう一つは、学校の司書嘱託員の方についてですが、勤務時間が午後3時までになっております。保護者は、午後3時過ぎあたりに若干時間ができるところです。3時過ぎあたりに司書嘱託員の方がいらっしゃれば、保

護者の方と連携がとれますので、もったいないと思います。

大野委員

西原小では、以前職員が使っていた研修室を「地域活動室」ということで地域に開放することにしまして、「子どもの本を楽しむ会」という団体の方々の拠点にしてもらっております。「子どもの本を楽しむ会」には、日常的にそこで活動していただいております。そういった拠点を提供していくことが、活動の活性化になるのではないかと考えております。

「魅力ある学校づくり地域協議会」との関係ですが、本校は3年目になるのですが「魅力ある学校づくり地域協議会」が本来の主体的な活動で動いていってほしいと考えております。つまり、学校の先生方が逐一かかわることは、先生方にとっては非常に大変なことです。読み聞かせをやっている方たちの集まりは極めて主体的であり、昨年度から「魅力ある学校づくり地域協議会」の部会に入らせていただきました。ひとつのモデルとなって、「魅力ある学校づくり地域協議会」が充実してくるといいのかなという考えを持っています。

松江委員

私は実際に地域で読み聞かせをしておりまして、現在9年目になります。宇都宮の図書の環境は良くなってきたと思います。学校に司書の方が配置されて図書館にいらっしゃるのが大きいと思います。陽南小ですが、私たちも読み聞かせだけではなく図書の整理とか本の修理等のボランティアさせていただいたりしております。職員の方だと時間が限られてしまうので、そこを何とか地域でフォローできるといいと考えています。また、宇都宮は、読み聞かせボランティアの勉強の機会是比较的多いのではないかと感じております。それから、子どもたちが本を選ぶ、うつのみやこども賞ですが、すごくユニークで全国的に評価されるようなすばらしい事業であると感じております。それと学校の図書館はかなり開放されていて、私達、読み聞かせボランティアもカードを渡していただいたりして、出入りも自由です。実際に、読み聞かせをしている者にとりましては、そんなに敷居の高くない、子どもたちとも触れ合える環境になっておりまして、このまま推進していただければなと感じております。

それから、資料に計画の指標ということで数字が出ておりますが、数字の根拠が気になるのと、目標の数字だと思いますが、少し弱気なのではと感じました。

廣瀬委員長

そのほかにいかがでしょうか。非常に重要な素案だと思いますので、いろいろな方のご意見を聞いてまとめていきたいと思っております。

工藤副委員長

図書館に行くと、中学生が社会参加ということだと思いますが本の整理をしておりました。あのような活動を通して図書館に親しみ、同時に読書の習慣にもつながるものだと思いますので、もっと多くの学校の子どもたち

が参加していけるようにしていただきたいと思います。

もう一つ、図書館の貸出カードですが、小・中学生たちにある程度このぐらいのパーセントの人たちに持ってもらうという数値目標を設定しても良いのではないかと思います。そうしないと、どうしても図書館の近くの学校の子どもばかりになり、遠くの子どもが行かなくなります。

それから、読書ボランティアの関係ですが、小学校ですと個人の努力に任されているといえますか、学校全体として努力をしているかは、あいまいなところがあります。

江面委員

中学校側から発言させていただきますが、小学校の時には、たぶんボランティアの方は、かなり入るのかと思います。読み聞かせ、あるいは図書の整備等ですが、中学校には入ってこれないという現状がございます。どうしてかと訳を聞きますと、やはり中学生の聴く態度がどうも気になって仕方がないようです。注意をしなければならないような聞き方をしているので、かなりの技能を持っていないと継続されないと言うような悩みがあります。中学校でも若松原中学校とか瑞穂野中学校では、かなりこのことに取り組んでおります。読み聞かせをしていただける技能を少し高めていただくのもよいのですが、中学生の態度に対応していただける、そのあたりの技量を持った方に入っていただくのがいいのかなと思います。

事務局

中学生の読み聞かせなのですが、去年あたりからいくつかの中学校から図書館のほうにボランティア派遣の要請がありました。図書館には、何十年の経験のあるボランティアさんがいらっしゃるので、中学生にもよく聴いてもらえてよい反応があったということで帰ってまいります。できればそういった技能を持つボランティアさんをもっと増やせるよう力を付けてまいりたいと思っております。中学校でも決して、出来ないことではないと思っております。

大野委員

子ども達が興味を示すような、学校として取り組めることですが、市の主催で司書の研修を5回くらいやっていたと思います。おそらく、各学校ではかなり工夫された取組みがされているものと思います。そういったことを情報交換することによって、それを持ち帰って、自分の学校に活かせるのではないかと思います。この間、本の方と児童会の子と一緒に影絵をやりました。バックのミュージックに篠笛とマリンバの演奏者に入っていて、非常にいい活動になりました。おそらく、そのようなおもしろい活動を、それぞれの学校でやっているものと思います。そうした情報交換をすると良いのではないかと思います。

廣瀬委員長

そのほかご意見ございませんか。ご感想でもかまいません。

石原委員

大学図書館も地域開放しておりますが、中々知られることが無いようです。作新の場合は幼児教育科もありますので、絵本、紙芝居、人文科学系の専門書までありますし、開館時間も6時までとなっております。お仕事帰りの方も使えるのではないかと思いますので、何かの機会に案内の所に入れていただきたいと思います。

廣瀬委員長

非常に貴重なご意見をいただきありがとうございました。読書活動は情操教育だけでなく、子どもの学力向上と大きく相関があつて、これは事実上、子どもの学力向上計画でもありますので、非常に重要な計画です。同時に地域の人たちにとっては、実は学校支援ボランティアといわれる人たちの半数以上は読み聞かせですから、ボランティア活動の入り口でもあります。地域の大人たちの学習成果を活用した、大人の社会参加の計画でもあります。図書館を媒体にして社会参加していくということです。そういった意味では、まちづくりにもつながっていくものと思います。また、読書をすすめることがたくさん書いてはありますが、それに見合う図書購入費は確保されているのでしょうか。目立たない地味な予算要求ですけれども是非、担当課で獲得していただきたいと思います。

そのほか何かございませんか。無いようですので、以上で社会教育委員の会議を終了させていただきます。